

応用心理学とキャリアデザイン

——学びを活かして働くために——

○渡辺 伸子¹ 伊東 昌子² 藤本 吟藏³

(¹東北公益文科大学 ²元常磐大学心理学科・成城大学経済研究所 ³藤本労働安全コンサルタント事務所)

キーワード：キャリアデザイン、応用心理学

【目的】

本シンポジウムは、会員同士の相互理解を深めること、若手に対して様々なキャリアを示すこと、学生等外部からの参加者に対して応用心理学の仕事について知ってもらうことの3点を目的とした企画です。本学会には、実践の場で働いている先生や、応用的な場所を研究活動の対象としている先生が多数ご所属されています。今回は、企業の現場での経験や、社会人院生としての経験などを、2名の先生よりお話いただきます。

応用心理学会には、応用的な関心を持った会員が集っています。また、会員の所属も、大学などの教育機関、公的な研究所、民間の研究所、病院など、多岐に渡ります。多様な所属の会員が本学会に所属していることは本学会の魅力ではありますが、一方で、自然に相互理解を深めることの障壁であることも確かです。これまでも類似の研究テーマの会員同士の交流は活発に行われてきましたが、一方で、異なる研究テーマの会員同士で交流を図る機会が十分であったとは言い切れません。

そこで、本シンポジウムでは、研究テーマの枠を超えて交流を図るとともに、応用心理学の知識を社会にどのように還元していくかについて考えます。また、話題提供者のこれまでのキャリアを辿ることで、参加者自身のキャリア形成を振り返る機会としていただきたいと思います。加えて、話題提供者の所属や働き方の変遷に着目して聞くことで、参加者の今後のキャリアデザインに新たな選択肢を提示する機会となることが期待されます。

非会員の参加者にとっては、応用心理学の社会還元について考える機会になることが期待されます。応用心理学の知見が身近な暮らしを支えていることを知ることで、自身の今後の学びの展望を持つことが期待されます。また、本学会の魅力についてもぜひ体感してください。

【話題提供】

1. 心理学の専門的実践領域としての「人間中心設計」(伊東 昌子)

心理学、特に認知心理学に関係する専門的実践として「人間中心設計(Human Centered Design: HCD)」を紹介いたします。1980年代から主にアップル社が率先して採用してきた製品やサービスの設計開発論です。心理学関連では「人間工学」「認知工学」「ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(HCI)」領域が含まれます。産業、交通、医療、行政、など、幅広い社会実践領域に適用可能です。製品やサービスに関わる人間特性や活動傾向を調査し理解した上で、使いやすい製品やサービスの設計、安全な自動技術や環境の

設計、新しい価値を創り出す企画など、製造技術やデザインの専門家と協働する実践領域です。心理学には、人間中心設計に関する情報が入らないために、関連する研究や実践の分野から心理学の貢献が強く求められているにも関わらず、そこへ踏み出す心理学分野の人々が稀という現状です。そこで、人間中心設計と心理学の関係と、応用心理学会への期待をお話します。

2. 社会人院生へのすすめ(藤本 吟藏)

私は3つの大学で学んだ。医療系の北里大学衛生学部、49歳で大阪工業大学工学部、66歳で大阪大学大学院人間科学研究科である。そして3つの職業を経験している。土木技術者、大学の非常勤講師、厚労大臣の国家資格を得て労働安全コンサルタント、3足のわらじを履いている。

現在は主に安全の仕事をしている。労働安全衛生法を武器とする、安全の専門家である。ところが法律で縛っても事故は撲滅しない。してはいけないことをする。しなければいけないことをしない。これは、人間とは何か？から見てみないと事故は撲滅しないことを痛感した。そこで、大阪大学大学院人間科学研究科安全行動学に社会人院生となった。そこから得られた心理学の知識から、事故の深層に隠された人間の行動を知ることが出来た。そして今、その知識を社会に還元すべく、研究に研鑽を重ね、いろんな方面に役立とうと考えている。

【指定討論】(渡辺 伸子)

現場で働く際に心がけることなどについてまとめる。加えて、本学会の認定する「応用心理士」の資格の有用性について触れる。

(わたなべ のぶこ・いとう まさこ・ふじもと ぎんぞう)